

F—28 福岡県内4地区における家族計画の実態調査(第5報)
分娩適令期並びに難産による身心障害児出生
に対する認識

中村学 大家政 山下 歌子

1. 近年共稼ぎ家庭が漸増し、第1子分娩年令が高年化するのではないかと懸念されている。第1子分娩年令には適令期があり、難産に陥ったために身心障害児が発生する率は高い。これを防止するためには、分娩年令や妊娠中の母体の健康管理に留意し、異常の早期発見と早期治療につとめることが肝要である。演者は分娩適令期および難産による身心障害児出生に対する本研究を行なった。

2. 調査対象地域、調査対象者の構成、調査方法および調査時期は前報の通りであり、調査結果は χ^2 検定によって有意差検定を行なった。設問は第1子分娩年令および難産による身心障害児出生に対する認識を問うたものである。

3. 1. 望ましい第1子分娩年令は20～29歳と答えたものが90%以上で、大部分のものがこの問題を正しく理解していた。

2. 難産のために精神薄弱児や不具者が生まれると思ったものは約半数あり、残りの半数はこの問題について理解がなかった。